

農林水産統計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

平成18年9月6日公表

平成18年産麦類、れんげ、イタリアン
ライグラスの作付面積及び4麦の収穫量(九州)

- 収穫量は、4麦とも前年産に比べ減少 -



【調査結果の概要】

- 九州における平成18年産の4麦(小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦)の作付面積(子実用)は55,400ha、収穫量は20万2,900tで、作付面積は前年産並み、収穫量は前年産に比べ6,100t(3%)減少しました。
- 平成18年産のえん麦、れんげ、イタリアンライグラスの作付面積は、それぞれ5,120ha、7,270ha、40,400haで、いずれも前年産に比べ430ha(8%)、820ha(10%)、400ha(1%)減少しました。

平成18年産 4麦の収穫量(九州)

区分	平成18年産			前年産との比較						(参考)
	作付面積	10a当たり収量	10a当たり収穫量	作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均収量対比
				対差	対比	対差	対比	対差	対比	
計	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%
	55 400	-	202 900	300	101	-	-	6 100	97	-
小麦	37 800	383	144 900	800	102	16	96	2 700	98	103
二条大麦	16 300	333	54 200	400	98	13	96	3 500	94	94
六条大麦	12	145	17	5	171	163	47	3	85	35
裸麦	1 350	277	3 740	30	98	4	101	30	99	97

- 注：1 作付面積は、子実用面積です。(以下の各表においても同じです。)
 2 印は、減少を示し、「-」は事実のないものです。(同上)
 3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くものです。(同上)
 4 (参考)の「10a当たり平均収量対比」とは10a当たり平均収量(過去7か年の実績値のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値)と10a当たり収量との対比です。(同上)

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

[http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html]

この統計調査における調査の目的、調査の対象などは、【調査の仕様】P7に記載しています。

【解 説】

1 小 麦

九州における小麦の収穫量は14万4,900tで、前年産に比べ2,700t(2%)減少しました。

これは、作付面積が二条大麦からの転換等により800ha(2%)増加したものの、4月上旬の大雨により一部で冠水等が発生したことや出穂後の低温、多雨により湿害や倒伏が見られたことから、10a当たり収量が前年産に比べ16kg(4%)下回ったためです。

2 二条大麦

九州における二条大麦の収穫量は5万4,200tで、前年産に比べ3,500t(6%)減少しました。

これは、作付面積が小麦への転換等により400ha(2%)減少したことと、小麦同様に4月上旬の大雨により一部で冠水等が発生したことや出穂後の低温、多雨により湿害や倒伏が見られたことから、10a当たり収量が前年産に比べ13kg(4%)下回ったためです。

3 六条大麦

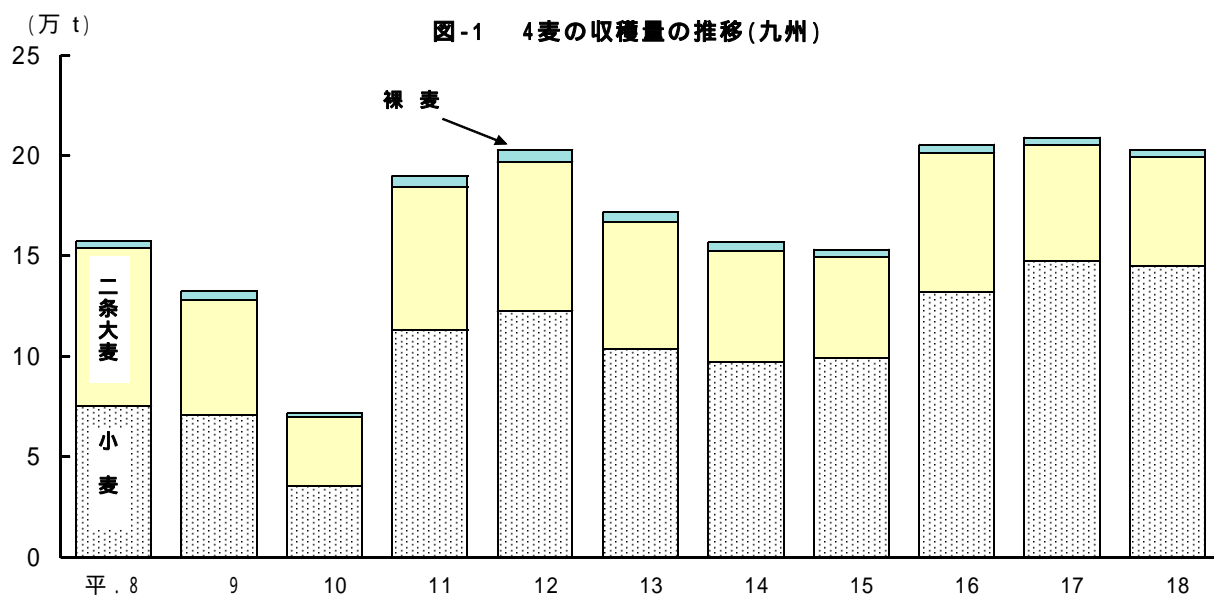
九州における六条大麦の収穫量は17tで、前年産に比べ3t(15%)減少しました。

これは、作付面積が麦茶の原料用として増加したものの、は種後の低温、寡照により著しく発芽不良となったほ場が多く見られ、10a当たり収量が前年産に比べ大幅に下回ったためです。

4 裸 麦

九州における裸麦の収穫量は3,740tで、前年産に比べ30t(1%)減少しました。

これは、10a当たり収量は前年並みであったものの、作付面積が30ha(2%)減少したためです。

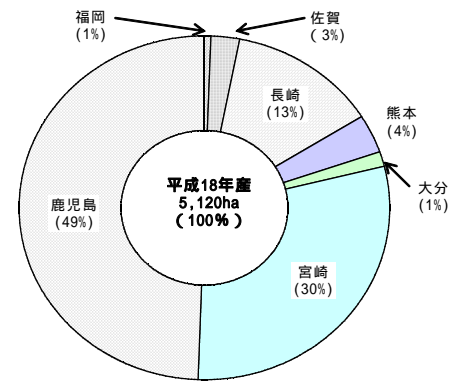


5 えん麦

えん麦の作付面積は5,120haで、前年産に比べ430ha(8%)減少しました。

これは、主に鹿児島県において、畜産の飼養頭数の減少やイタリアンライグラス等への転換が行なわれたためです。

図 - 2 えん麦作付面積比率

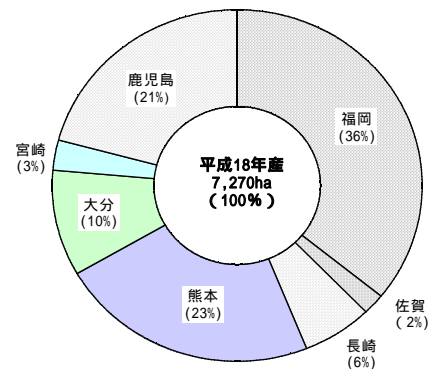


6 れんげ

れんげの作付面積は7,270haで、前年産に比べ820ha(10%)減少しました。

これは、主に、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県において、麦作への作付け転換や農家の高齢化による作付意欲が低下したためです。

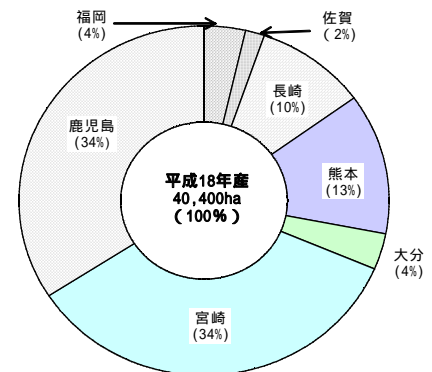
図 - 3 れんげ作付面積比率



7 イタリアンライグラス

イタリアンライグラスの作付面積は4万400haで、前年産に比べ400ha(1%)減少しました。

図 - 4 イタリアンライグラス作付面積比率



イタリアン・ライグラスってなあに？

学名：L.italicum A. BR
和名：ねずみむぎ

おいたち
地中海地方の原産で、北イタリアで初めて栽培され、19世紀初めにフランス・スイスに渡り、以後世界の温帯・亜熱帯地方に分布するメジャー的作物である。日本には、明治元年（1868年）に導入され、瞬く間に日本中に広まり畜産農家の自給飼料として栽培されている。

イタリアン・ライグラス



【統計表】

1 4麦計

区分	作付面積	収穫量	前年産との比較			
			作付面積		収穫量	
			対差	対比	対差	対比
	ha	t	ha	%	t	%
九州	55 400	202 900	300	101	6 100	97
福岡	20 300	80 600	400	102	1 000	101
佐賀	21 300	78 900	200	99	7 800	91
長崎	1 940	6 160	50	97	600	91
熊本	6 890	23 600	190	103	1 000	104
大分	4 820	13 100	90	102	300	102
宮崎	63	165	12	84	51	76
鹿児島	147	356	16	90	21	106

2 小麦

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10a当たり平均 収量対比
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		
				対差	対比	対差	対比	対差	対比	
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%
九州	37 800	383	144 900	800	102	16	96	2 700	98	103
福岡	16 300	417	67 900	200	101	2	100	500	101	109
佐賀	11 600	389	45 100	300	103	46	89	4 000	92	98
長崎	963	339	3 260	57	94	18	95	380	90	104
熊本	5 410	355	19 200	300	106	2	99	1 000	105	102
大分	3 400	274	9 330	10	100	8	103	300	103	98
宮崎	33	276	91	12	73	17	94	41	69	99
鹿児島	26	238	62	3	113	27	90	1	102	98

3 二条大麦

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10a当たり平均 収量対比
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		
				対差	対比	対差	対比	対差	対比	
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%
九州	16 300	333	54 200	400	98	13	96	3 500	94	94
福岡	3 720	320	11 900	200	106	4	99	500	104	98
佐賀	9 610	349	33 500	490	95	20	95	3 800	90	94
長崎	674	329	2 220	20	103	26	93	100	96	92
熊本	1 460	296	4 320	110	93	21	108	0	100	95
大分	713	265	1 890	60	109	37	88	80	96	82
宮崎	27	248	67	1	104	29	90	5	93	88
鹿児島	120	243	292	20	86	47	124	18	107	93

4 六条大麦

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均	
				対差	対比	対差	対比	対差	対比	収量対比	収量対比
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	
九州	12	145	17	5	171	163	47	3	85	35	
福岡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分	12	145	17	5	171	163	47	3	85	35	
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

5 裸麦

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均	
				対差	対比	対差	対比	対差	対比	収量対比	収量対比
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	
九州	1 350	277	3 740	30	98	4	101	30	99	97	
福岡	244	333	812	22	92	30	110	7	101	103	
佐賀	75	351	263	22	77	7	102	71	79	104	
長崎	302	224	676	12	96	30	88	120	85	89	
熊本	22	300	66	5	129	12	104	17	135	104	
大分	698	274	1 910	15	102	15	106	140	108	96	
宮崎	3	235	7	1	75	27	90	5	58	98	
鹿児島	1	241	2	1	...	10	104	2	...	98	

ちよっぴり物知り雑学・・・

「小麦」



用途
*パン
*麺類
*お菓子等

「二条大麦」



用途
*ビール
*焼酎等

「裸麦」



用途
*味噌
*醤油等

【主な品種】

シロガネコムギ
チクゴイズミ

ニシノチカラ
ニシノホシ

イチバンボシ

6 えん麦，れんげ及びイタリアンライグラス

田畑計

区 分	えん 麦			れん げ			イタリアンライグラス		
	作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	59 800	900	102	21 400	2 900	88	61 000	1 400	98
九州計	5 120	430	92	7 270	820	90	40 400	400	99
福 岡	25	3	89	2 600	200	93	1 420	40	97
佐 賀	133	5	104	151	12	93	733	26	97
長 崎	659	29	96	448	58	89	3 900	120	103
熊 本	190	8	96	1 660	180	90	5 220	40	99
大 分	65	22	75	702	147	83	1 550	170	90
宮 崎	1 520	40	103	205	67	75	13 900	300	98
鹿児島	2 530	410	86	1 510	150	91	13 700	0	100

田

区 分	えん 麦			れん げ			イタリアンライグラス		
	作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	15 300	900	94	21 400	2 900	88	26 000	900	97
九州計	2 150	240	90	7 270	820	90	16 500	500	97
福 岡	13	2	87	2 600	200	93	901	19	102
佐 賀	33	9	138	151	12	93	298	22	93
長 崎	222	5	98	448	58	89	1 630	90	106
熊 本	86	7	90	1 660	180	90	2 630	50	98
大 分	12	6	67	702	147	83	918	142	87
宮 崎	776	2	100	205	64	76	5 900	230	96
鹿児島	1 010	230	81	1 510	150	91	4 230	170	96

畑

区 分	えん 麦			れん げ			イタリアンライグラス		
	作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較		作付面積	前年との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	44 600	1 800	104	6	3	67	35 100	400	99
九州計	2 980	190	94	-	3	-	23 900	100	100
福 岡	12	1	92	-	-	-	522	57	90
佐 賀	100	4	96	-	-	-	435	4	99
長 崎	437	24	95	-	-	-	2 270	30	101
熊 本	104	1	99	-	-	-	2 590	10	100
大 分	53	16	77	-	-	-	629	29	96
宮 崎	742	33	105	-	3	-	8 010	50	99
鹿児島	1 530	180	89	-	-	-	9 420	140	102

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、麦類、れんげ及びイタリアンライグラスの生産に関する実態を明らかにし、「食料・農業・農村基本計画」において策定された食料自給率や生産努力目標の達成に向けた各種行政施策の推進、農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料を整備することを目的としています。

2 調査客体数

(1) 作付面積調査

ア 面接調査：336団体等

イ 巡回・見積り：261市町村

(2) 収穫量、被害面積及び被害量

ア 面接調査：281団体

イ 基準筆調査：208筆

ウ 巡回・見積り：261市町村

3 調査期日

(1) 作付面積：平成18年4月1日

(2) 収穫量、被害面積及び被害量：収穫期（作柄及び被害状況の判断に適した時期を含む。）

4 調査方法

(1) 作付面積

センター職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りによるものです。

(2) 収穫量、被害面積及び被害量

センター職員による関係団体に対する面接調査、作況基準筆及び被害調査筆（設置した場合のみ）の調査結果に基づく巡回・見積りによるものです。

5 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成19年3月刊行予定の『耕地及び作付面積統計』（農林水産省統計部）及び平成19年8月刊行予定の『作物統計』（農林水産省統計部）に掲載します。

【掲載内容に関するお問い合わせ先】

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1、2係

電話：(代)096-353-3561 内線 4754

直通電話： 096-353-7574

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画第2係

電話：(代)096-353-3561 内線 4723

直通電話： 096-353-7556

10月18日は統計の日 「生かします。あなたにもらった 貴重なデータ」